第 7 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

総合戦略掲載

過疎計画掲載

X

0

[PLAN]

事務事業の目的と成果

事業名パス路線確保対策事業 平成6年度 ~ — 年度 事業期間 第7期総合計画 の位置付け 他に関連する 基本事業 事業性質区分 新規・継続 建設外 5-2-2 市民生活課生活交通係 継続 建設・建設外 所管課係 (何のために実施する のか) 路線パスを運行しているパス事業者に収支補填を行い、交通手段を維持・確保し、市民生活の向上を図る。 手段 赤字路線である上砂川線、滝川美唄線、滝川奈井江線などを運行するバス事業者に対して収支補填を行う。 (どのような方法で 実現するのか) が子 は稼 とのる 上砂川森、 滝川 美児森、 滝川 宗 井江森 なる 実現するのか) 対象 (誰・何を対象として 北海道中央バス株式会社、市民 いるのか) (どのような効果が 得られるのか) パスの運行を将来にわたって維持・確保することによって、市民の日常生活に欠かすことのできない交通手段を守る。 焼山線については、昭和63年4月24日にJR歌志内線が廃止となり、翌日より代替として中央バスによる運行が開始された。

運行開始後6年間は、国及び道による10094補助(転換パス事業費補助)の対象であったが、平成6年4月25日以降の運行に係る赤字(生活交通路線維持費補助金を差し引いた分)については、当市と歌志内市で補填している。 花月砂川線については、従前より運行していたJRバスが平成15年2月28日をもって撤退した。

[DO]

事業開始時の状況・これまでの経

李續

その後の代替は、中央バスによって運行され、生活交通路線維持費補助金を差し引いた赤字について、滝川市・新十津川町・浦臼町・砂川市で補填している。

なお、平成18年度補填分より、補助金交付要件に該当しなくなったため、関係市町のみで補填している。

					第1次実施	3カ年計画			第2次実施	3 カ年計画		第3次実施4力年計画					
				第1年次	第2年次	第3年次	実施3カ年	第4年次	第5年次	第6年次	実施3カ年	第7年次	第8年次	第9年次	第10年次	実施4カ年	第 7 期総合計画
				(3年度)	(4年度)	(5年度)	合 計	(6年度)	(7年度)	(8年度)	合 計	(9年度)	(10年度)	(11年度)	(12年度)	合 計	合 計
	国		計画額				0				0					0	0
			予算計上額				0				0					0	0
			実 績 額				0				0					0	0
	道		計画額				0				0					0	0
			予算計上額				0	1			0					0	0
			実績額				0				0					0	0
	地方		計画額				0				0					0	0
+n.			予算計上額				0				0					0	0
投	7 0		実績額計画額				0				0					0	0
入	その						0				0					0	0
, ,			予算計上額 実 績 額				0		-		0					0	0
さ	一般財		計画額	6, 794, 000	6, 794, 000	5, 467, 000	19, 055, 000	10, 375, 000	10, 375, 000	10, 375, 000	31, 125, 000	10, 375, 000	10, 375, 000	10, 375, 000	10, 375, 000	41, 500, 000	91, 680, 000
	一版网		予算計上額	6, 794, 000	6, 794, 000	5, 467, 000	19, 055, 000	10, 375, 000	10, 375, 000	10, 375, 000	31, 125, 000	10, 375, 000	10, 375, 000	10, 375, 000	10, 375, 000	41, 500, 000	91, 680, 000
れ				2 22 222	7 500 000	40.070.000	04 500 004	10 010 705			10.010.705					0	0 7 407 000
<i>t</i> =			実績額	6, 697, 260	7, 520, 022	10, 373, 399	24, 590, 681	12, 816, 705			12, 816, 705					0	37, 407, 386
/_	事業費合		計画額	6, 794, 000	6, 794, 000	5, 467, 000	19, 055, 000	10, 375, 000	10, 375, 000	10, 375, 000	31, 125, 000	10, 375, 000	10, 375, 000	10, 375, 000	10, 375, 000	41, 500, 000	91, 680, 000
事			予算計上額	0	0	0	0	C	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			実 績 額	6, 697, 260	7, 520, 022	10, 373, 399	24, 590, 681		0	0	12, 816, 705	0	0	0	0	0	37, 407, 386
業				バス運行の補助	バス運行の補助	バス運行の補助			バス運行の補助								
284	事業費予算	ĮΟ		年度は10月~9 月であるため補	年度は10月~9 日であるため補	年度は10月~9 日であるため浦		年度は10月~9 日であるため補	年度は10月~9 月であるため補								
費	内容				正予算で対応。			正予算で対応。									
စ				_ , ,,,	_ , , , , , , , , , ,	_,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,											
• •	前年度予算	غ															
推	の比較																
	(増減理由	3)															
移				上砂川線、滝川美	上砂川線、滝川美	上砂川線が廃止と		滝川美唄線、滝									
				理線、滝井江 線を補填している が、滝川奈井江線 の補填額が下が	唄線、滝川奈井江	なったが歌志内線		川奈井江線、歌									
				線を補填している	線を補填している	の補填を開始した		志内線を補填し									
	実績との比	本書か		の補填額が下がっ	か、経帯収量の減 と経常費用単価の	3月補正		ているが、経常 費用単価の増に									
	(増減理由	3)		たことによる減。	増による増。	10,374千円		食用単価の増に よる増。									
		,			3月補正 7.521千円			3月補正									
				3月補正	1, 521TD			12,818千円									
				6,699千円													
								11	1							l	

[CHECK · ACTION]

指標の推移・評価

指標の推	隹移	- 評価															
活動指標	票 1	(「手段」をもとに設定)	指標名:収支補:	填額		指標の求め方:収支補填額											
成果指標	票 1	(「成果」をもとに設定)	指標名:営業距	離数		指標の求め方:ī	市内バス路線の営	業距離数									
				第1次実施	3 カ年計画			第2次実施	3 力年計画			第	3次実施4力年計			第 7 期	
			第 1 年次 (3年度)	第2年次(4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合 計	総合計画合計	
		活動指標 1 計画	}		5, 467		10, 375	10, 375	10, 375		10, 375	10, 375	10, 375	10, 375			
指標	TE	(単位/千円) 実績(10, 374		12, 818 29. 2	00.0	29. 2		20.0	29. 2	29. 2	20.0			
IN		成果指標 1 計画 ((単位/km) 実績 (}		29. 2 29. 2		29. 2	29. 2	29. 2		29. 2	29. 2	29. 2	29. 2			
		事業の達成度 (活動指標をもとに評価)			達成されていない											
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)			あまり上がってい ない											
	Ī	事業の効率性				変わらない											
	H	総合評価				問題がある											
事務事業評価	西 勺	総合評価の判 理由または指 の実績値に関 る自己分析	等のの調整を画のた子でである。 等のでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	回っており、上 砂川線についま は令和4年9月ま で廃止路線と なった。 成果指標につい	川線が廃止と なったが歌志内 線の補填を開始 したことにより	加し、便数、運整行時等の調整が必要容合評で合い。	費の増加や燃料 費の高騰により 中央バスの自社 単価が上昇し経	自己分析:	自己分析:	判断理由:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:		
今後の方向性 R5 : 活動指標の実績値に問題はあ であるため、バス事業者、関 時間等の調整をして収支補填 があると考える。 上砂川線については、利用者 方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)					町と減便等を協議 削減に努め、事業 少とともに補填額	しながら、運行を継続する必要 が増加したた	R8 :				R10 :						

第7期総合計画事務事業進行管理調書

[PLAN]

事務事業の目的と成果

総合戦略掲載 〇 過疎計画掲載 〇

事 業 名	予約型乗合タ	クシー運行事	業		事業期間 平成27年度 ~ —			- 年度					ı			
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設外	第7期総合計画 の位置付け	5-2-2	他に関連する 基本事業						所管課係	市民生活課生活交通係		
目的 (何のために実施するのか)	市民の日常生活に	こ必要な交通手段	を確保することで、	、市民生活の利	- 更性の向上を図る。			手段 (どのような方法で 実現するのか)	自宅とまちなか区域に設定する目的地間を予約型乗合タクシーにより運行する。 な方法で 予約型乗合タクシーを運行するタクシー事業者に対して、運行経費の不足分を補助する。							
対象 (誰・何を対象として いるのか)	市民、タクシー	事業者						成果 (どのような効果が 得られるのか) 交通空白地域の解消が図られ、市民の通院・買い物等の日常生活に必要な移動手段が確保される。								
事業開始時の状況 緯	平成25年度、コミュニティバスと予約型乗合タクシーによる実証調査運行を実施した。コミュニティバスについては高齢化の進行に 時の状況・これまでの経 が可能であるため、今後の高齢化の進行及び持続可能な公共交通を考えた場合は乗合タクシーが最適と考えられるが、実証調査運行 平成26年度、予約型乗合タクシーによる実証調査運行を実施し、砂川市ではコミュニティバスのように限られた範囲を定時定路線で 入を進めると判断し、平成27年10月から予約型乗合タクシーの本格運行を開始した。										入判断に至るデー	タが不十分であっ	た。			

[DO]

実績

(単位:円)

				第1次実施	3 カ年計画		第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					
			第1年次	第2年次	第3年次	実施3カ年	第4年次	第5年次	第6年次	実施3カ年	第7年次	第8年次	第9年次	第10年次	実施4カ年	総合計画
			(3年度)	(4年度)	(5年度)	合 計	(6年度)	(7年度)	(8年度)	合 計	(9年度)	(10年度)	(11年度)	(12年度)	合 計	合 計
	国 費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	道費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	地 方 債	計画額				0				0					0	0
投		予算計上額				0				0					0	0
-		実 績 額				0				0					0	0
入	その他	計画額				0				0					0	0
さ		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
れ	一般財源	計画額	13, 131, 000	13, 131, 000		39, 393, 000	16, 688, 000	16, 688, 000	16, 688, 000	50, 064, 000	16, 688, 000	16, 688, 000	16, 688, 000	16, 688, 000	66, 752, 000	156, 209, 000
t		予算計上額	13, 131, 000	13, 209, 000	13, 848, 000	40, 188, 000	16, 688, 000	18, 365, 000		35, 053, 000					0	75, 241, 000
/_		実 績 額	13, 220, 000	10, 950, 189		37, 226, 100	14, 700, 992			14, 700, 992					0	51, 927, 092
事	事業費合計	計画額	13, 131, 000	13, 131, 000	13, 131, 000	39, 393, 000	16, 688, 000	16, 688, 000	16, 688, 000	50, 064, 000	16, 688, 000	16, 688, 000	16, 688, 000	16, 688, 000	66, 752, 000	156, 209, 000
		予算計上額	13, 131, 000	13, 209, 000	13, 848, 000	40, 188, 000	16, 688, 000	18, 365, 000	0	35, 053, 000	0	0	0	0	0	75, 241, 000
業		実 績 額	13, 220, 000	10, 950, 189	13, 055, 911	37, 226, 100	14, 700, 992		0	14, 700, 992	0	0	0	0	0	51, 927, 092
費			普通旅貨15十円 運行経費補助金	普通旅費15千円 運行経費補助金			普通旅費15千円	普通旅貨16十円 運行経費補助金								
	事業費予算の		12,922千円	13,014千円	13,635千円		16,475千円	18, 151千円								
の	内容		交通会議負担金					交通会議負担金								
推			194千円	180千円	198千円		198千円	198千円								
100			増減なし	運行経費補助金	運行経費補助金		運行経費補助金	運行経費補助金								
移	前年度予算と			の増	と交通会議負担			の増								
	の比較				金の増											
	(増減理由)															
			乗合タクシー利	乗合タクシー利用	乗合タクシー利用		主に運行経費補									
	実績との比較		用者が想定より 多く、補助額が	有か想定より少な かったことによ	有か想定より少な かったことによ		助金の減									
	(増減理由)		増えたため	る、理仃栓質無助	る、理仃栓質無助											
				金の減	金の減											
							l			l l						

[CHECK · ACTION]

指標の推移・評価

Ħ	標の	推移	・評価															
汨	動指	標 1	(「手段」をもと	に設定)	指標名:地域公共	共交通会議開催回	数	指標の求め方:均	也域公共交通会議	開催回数								
反	课指	標 1	(「成果」をもと	:に設定)	指標名:年間利用者	f数(前年10月~当年	9月の利用者数)	指標の求め方:年	F間利用者数(前	年10月~当年9月	の利用者数)							
						第1次実施	3 力年計画			第2次実施	3 力年計画			第	3次実施4カ年計画			第 7 期
					第 1 年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年合計	第 4 年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施3カ年合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合 計	総合計画合計
			舌動指標 1 (単位/回)	計画値	3	3	3		3	3	3		3	3	3	3		
		指標	(単位/凹) 式果指標 1	実績値 計画値	8, 451	8, 471	8, 491		8, 511	8, 531	8, 551		8, 571	8, 591	8, 611	8, 631		
		ľ	《米伯保 I (単位/人)	実績値	8, 583	9, 304	10, 762	!	11, 794	0,001	0,001		5, 5, 1	0,001	0, 011	0, 001		
			事業の達成度 (活動指標をも	とに評価)				達成されている										
			事業の成果 (成果指標をも	とに評価)				少し上がっている										
		4	事業の効率性					変わらない										
		H	総合評価	0/22/				普通である										
	務日	評価内容	総合由の実	評価の判制 実たには関す す値に関す き分析	録こ行り計で続報この図がよいった。 よがっき広う者をとっ、画いき知等、できなが期等、はいいのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	録こ行り計で、 はいっきに かいまない はいまれる とっ、 画いき 間とで に標回引な に は のいき 間と でいま かいき のいき のいき のいき のいき のいき のいき のいき のいき のいき の	録こ行り計で統領とで、画いき周とで、画いき周とで、画いき周でで、画いき周でではなが等を、別等を、別ででは、別等で、別等で、別等で、別でのでは、別等で、別では、別では、別では、別では、別では、別では、別では、別では、別では、別で	て、総合評価は	録こ行り計て続報こ がやた成値るが期等、 がやた成値るが期等、 いを利で がある に乗 ので の で の を の を の を の を の を の を の を の を	自己分析:	自己分析:	判断理由:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	
		-																
	H	1	今後の方向性		R5 ·			現状のまま継続	R8 ·				R10 :					
	改	善、	の判断理由 改革の内容 R8、R10)		機関の経営を圧込計した結果が現場ついては慎重にも地域公共交通会計	自することになら 犬となっており、 食討していかなけ 義において、バス	スやタクシーという かいよう、パランや 利用はな者数のななりか。 はま者後でなりない。 事業を継続する必要	スを配慮して検 ・利便性の向上に ・事業者、地域住	ino :				K10:					

第 7 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

[PLAN]

事務事業の目的と成果

総合戦略掲載 O 過疎計画掲載 ×

									1					
事 業 名	JR砂川駅設	備改善事業			事業期間	平成	27年度 ~ -	— 年度						
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外		第7期総合計画 の位置付け	5-2-2	他に関連する 基本事業						所管課係	土木課都市計画係
目的 (何のために実施する のか)		ル患者および家族	がJR砂川駅を利		・ 点として広域的な和 いら、高齢者・障か				駅構内にエレベ	- ター施設又は駅	の東側に改札口を	を整備する。		
対象 (誰・何を対象として いるのか)	市民をはじめとす	トるJR砂川駅の	利用客					成果 (どのような効果が 得られるのか)	跨線橋の段差解 拠点性の増進を	消により駅構内の 図る。	バリアフリー環境	きが向上することで	で、市内の居住利の	更性と駅周辺地区・中心市街地の
事業開始時の状況 緯		備に者計・・・・・し・・・・し・・・・し・・・・し・・・・し・・・・し・・・・し・	候時についています。 はないないでは、 はないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	D 待会 で は で は で が で が を と い が の 終 と に と つ 用 が の い が の い が の い が の い で い か で い で か で い か が い い で が か い い ず か が い い が が い い が が い い が が い い で か が い い で か が い い で か が い い で か が い い か が い い か が い い か が い い か が い い か が い い か が い い か が い い か が い い か が い い か が い い か が い い か が い い か が い い か い	いものとなってい 環境が能しているの いても低くのあり 前提にJR北海 ドランケー で、アンケー 下。。 『口整備期成会の連 で、交通量調査	る。この状況の状況る の最中で状況る 下業 道路議開実施、 J が を が が が が が が が が が が が が が が が が が	を改善し、高齢者 こと、国庫補道により ス・北海道に市・ の会額砂川市・ R提案資料作成。 川駅に、東口の設	・障害者等をはじめ 業のパリアフリー化 る負担での事業進行 単独による負担を基	とした市民の利在については現在 については現在 行は望めないこと は本として協議を 置に伴い、副本	便性を向上するた の砂川駅の乗降客 、優先的に事 進めている。 線の廃止等鉄道営業	めに、J R 北海道 数規模(およそ1、 業を推進するため な施設の環境整備、	に対して設備改善 400人/日)の駅 の、砂川市自由通路 ・併せて、連絡通	事業の実施につい については、優先 3 や跨線橋等の既存	(おり、ブラットホーム上に防風影) て要望書を提出。また、設備改善 順位が国の補助基準・各鉄道事業 F構築物の活用を図り、合理的な設 備のための用地の確保を要望書と

[DO]

実績

第1次実施3力年計画 第2次実施3カ年計画 第3次実施4力年計画 第 7 期 第1年次 第2年次 第3年次 第4年次 第5年次 第6年次 第7年次 第8年次 第9年次 第10年次 総合計画 実施3カ年 実施3カ年 実施4カ年 合 合 計 合 計 合 計 計 (3年度) (4年度) (5年度) (6年度) (7年度) (8年度) (9年度) (10年度) (11年度) (12年度) 計画額 予算計上額 実 績 額 計画額 予算計上額 投 実 績 額 計画額 地 方 債 予算計上額 Þ 実 績 額 の 計 画 額 予算計上額 た 実 績 額 一般財源 計画額 5, 595, 000 65, 000 65, 000 5, 725, 000 149,000 149,000 149, 000 447, 000 149, 000 149,000 149,000 149, 000 596, 00 6, 768, 000 予算計上額 5, 679, 000 149,000 149,000 5, 977, 000 149,000 149,000 298, 000 6, 275, 000 115, 787 実 績 額 5, 225, 157 110, 532 5, 451, 47 105, 162 105, 16 5, 556, 638 事業費合計 計画額 65, 000 65, 00 5, 725, 00 149, 000 149,000 149, 00 447, 000 149, 000 149, 00 149, 00 149,000 596, 00 6, 768, 000 5, 595, 000 予算計上額 149,000 5, 679, 000 149,000 149, 000 5, 977, 00 149, 000 298, 000 6, 275, 000 実 績 額 5, 225, 15 110, 53 105, 16 5, 556, 638 の 115, 787 5, 451, 476 105, 16 旅費65千円 旅費65千円 旅費65千円 旅費65千円 旅費65千円 推 役務費2千円 役務費2千円 役務費2千円 役務費2千円 役務費2千円 事業費予算の 委託料82千円 委託料82千円 委託料82千円 委託料82千円 委託料82千円 内容 移 委託料5,530千 前年度予算と 委託料の増 委託料の減 増減なし 増減なし 増減なし の比較 (増減理由) 実績との比較 入札による委託 旅費の減 旅費の減 旅費の減 (増減理由)

(単位:円)

[CHECK · ACTION]

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名: —	指標の求め方:KPIの設定が困難なため設定しない
成果指標1(「成果」をもとに設定)	指標名: —	指標の求め方:KPIの設定が困難なため設定しない

				第 1 次宝施	3 力年計画			笹 2 次宝 が	3 力年計画		第3次実施4力年計画 第3					
			第1年次	第2年次	第3年次	実施3カ年	第4年次	第5年次	第6年次	実施3カ年	第7年次	第8年次	第9年次	第10年次	実施4カ年	第 7 期 総合計画
			(3年度)	(4年度)	(5年度)	合計	(6年度)	(7年度)	(8年度)	合計	(9年度)	(10年度)	(11年度)	(12年度)	合 計	合計
		活動指標 1 計画値		-	-		-	-	-							
	指	(単位/) 実績値	-	-	-		-	-	-							
	標	成果指標 1 計画値		_			-	_	_							
		(単位/) 実績値	-	-	-		-	-	-							
		事業の達成度 (活動指標をもとに評価)														
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)														
		事業の効率性														
		(事業費に対する成果)				変わらない										
	10 2 2 1 12				普通である											
事務事業評価	評価内容	総合評価の判断 理由または指標 の実績値に関す る自己分析	業了備し査査査結の理備明とた適し和北し性でよれい。 大田 のいい でいました でいまない しょう はんしょう はんしょく はんしょ はんしょう はんしょ はんしょく はんしん はんしん はんしん はんしん はんしん はんしん はんしん はんし	(者円関成号く順幹事の事展で護後がめ川利実りい高等滑す18・、位線、人情がはをもいと駅便規組く高の化3年)工、札」員に困めを着者の引送法に事北幌R不よ難る続齢等る利の向を験に律律基の海延北足りながし者をJ用向け進、関・領で優道伸海等、状、、やは月旬けとの大きのでは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	導備りの態整協いが前別会可能と 人化備議が、準期金可能 を し、人化備議状、準期金可能 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	り212降旨着いり成PC難い事事「し業」り線に難へ2020第一次のと状る、果りでる業業評とのR、机よるを存った。果が成果した性道道伸手の本度ない、抗精致ると達成なま率海海延着提合という。 いっぱい いっぱい しいりょう いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱ	る和者の跨分を検が度費額らにい月業(以こ海・大田性、部機も、独立の一般に利利者階別では、大田性の一般に利力者階別では、大田性の一般に利力者階別では、大田性の一般に対しては、大田性の一般に対しては、大田性の一般に対しては、大田性の一般に対して、大田は、大田性の一般に対して、大田性の一般に対し、大田性の一体の一体の一体の一体の一体の一体の一体の一体の一体の一体の一体の一体の一体の	自己分析:	自己分析:	判断理由:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	
		今後の方向性				現状のまま継続	R8 :									
	改善、	生の判断理由 改革の内容	現在、JR北海道に対して、「跨線橋を残した自由通路へのエレベーター設置案」と「JR砂川駅東側改札口整備案」の2案について、早期実現に向けた協議を進めているが、令和12(2030 年度以降内容								R10 :					